

石川県七尾美術館だより

平成19年7月1日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第50号(夏号)



特別展「石川の歴史と文化再発見」(前期)

もののふ
「武士の装い」 ~ 石川県立歴史博物館所蔵の名品を中心に ~ より

石川県指定有形文化財

「紫紺糸威二枚胴具足」

長 尚連 所用

江戸時代前期(17世紀)

兜高26.8 胴高35.0 (cm)

石川県立歴史博物館蔵

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



展覧会紹介

平成19年6月30日(土)

9月17日(月・祝)

休館日については裏表紙をご覧ください

画業40周年

「洋画家・中村静勇の世界」

「幻想の物語」

6月30日(土) ～ 7月29日(日)

◆ 第二展示室

中村静勇氏は昭和十七年(一九四二)七尾に生まれ、同四十三年に横浜市へ移住し、同年14回一陽展に初出品、翌年には第八回神奈川県展に初出品、初受賞を果たしました。以後は主に第一美術展で活躍、彩美堂賞、会員努力賞、第一美術協会賞、三彩芸術大賞、文部大臣賞と、受賞を重ねます。また、その一方でスペイン、メキシコ、台湾など海外の展覧会にも積極的に出品し、昭和六十一年の第21回モンテカルロ現代国際美術賞展ではガルゴア賞を受賞しました。

一方、同六十年神奈川県老名市に「夢田窯」を築窯、絵画のみならず陶芸にも力を注ぎます。その翌年、日本画家・山本丘人の養子となり、同六十四年には富士山を望む静岡県駿東郡に移住、美術館夢田土・山本丘人記念館を設立、更なる制作活動に励みます。

現在も第一美術協会運営委員、日本美術家連盟会員などを務め、第一美術展を代表する作家として活躍しています。

氏は今年、画業40周年を迎えました。本展ではこれを記念して、初期から現在までの作品から二十七点を展示し、その足跡を紹介します。

美術館夢田土・山本丘人記念館に隣接した氏の自宅兼アトリエは、名峰富士と金時山の間に位置

し、少し歩けば目の前に雄大な景色が広がります。子ども頃の様々な思い出や、青春時代の孤独や不安は、いつしか大自然の中に溶け合い、自然と人物を組み合わせた表現へと形を変えていくのです。人間の内面性や精神性と、自然讃歌を融合させた幻想の物語をお楽しみください。



「予感」1979年 作家蔵

◆ 作者の言葉 ◆

氏の作品には、様々なキーワードの様なものが描かれています。また、氏独自の表現は、絵の形にも表れていきます。それらを、氏自身の言葉で紹介します。

《蝶》……………「浮遊する意識の象徴」

《トランプ》……………「生活空間における希望、願望へのカードである」

《マネキン》……………「物言わぬ人形は冷たく、虚ろである。突き放された感情表現により強くアピールする、人間の内面表現の画材の一つである」



「春愁の譜」1985年 作家蔵

「春愁の譜」……………

「冬の村の段々畑で、竹スキーで遊んだ頃を思い出す。絵は、成人してから冬の白馬で、木のスキーで初めて滑った時の思い出である。雪の中を散策中に眼に入ってきた風景である。深く積もった雪の中に、黒く口を開けた穴、当時の自分の心境と重なった景色である。雪の中、春の来る日を待つ心境である」

《窓・扉》……………

「最初は扉だけで、単に構成上の意味合いが大きかった。それが人物をモチーフとした時、その人の生活感、世界観表現の手段と共に、過去・現在・未来といった意識空間への三次元的空間構成へと変化してきた。奥が見えない面ではなく、線による描写によって透明感のある空間表現の可能性を拡大し、緊張感を生み出している」



「麗色」1994年 作家蔵

《菱形》……

「菱形の画面について、基本的には日本画でよく言われている余白を求めている。余白は東洋の空間であり、間である。限られた画面の中で最大の余白空間を持ちたい、対象物をより強く表現しようとしたとき、この菱形には未知数の可能性が生まれてくる」



「Melancholy (II)」1988年 作家蔵

「池田コレクシオン」は、七尾市名誉市民である池田文夫氏（一九〇七〜八七）が生前に蒐集した美術品です。

◆ 第一展示室

「近現代日本画と彫刻に親しむ」
池田コレクシオンを中心に

同時開催



「木槿一輪 (I)」2006年 作家蔵

「木槿一輪」……「木槿は夏から秋にかけて花卉が朝開き、夕方にはしぼんで次々と咲き続ける。そういった儂げな生命の循環と、女性の美しさを対照的に描いた。」
さらに、画面の四方に月の満ち欠けをシンボリックに描いてみた。女性の体のリズムも、月と不可欠な関係にある。そういった宇宙的な生命の繋がりと、現世の生命がもたらす無常観とが同時に表せればと思った」

◇ 共通観覧料

一	般	個人	団体
大	高	3500円	4000円
中	生	500円	3000円

※中学生以下無料・団体は二十名以上です。
※第一展示室の共通料金です。
※7/19〜29は「モントレー・ジャズフェスティバル・ポスター展」もご覧いただけます。



「木彫土部」山崎朝雲 1952年



「夕宵図」菊池契月 大正〜昭和時代

七尾市出身の池田氏は、岐阜県大垣市に会社を設立されて活躍した経済人ですが、その一方では美術品のコレクター、文化人として知られています。
コレクシオンも幅が広く、美濃地方（現在の岐阜県）ゆかりの志野・織部といった陶器類や、近現代日本画や彫刻など多種多様です。
今回は、その池田コレクシオンを中心に、日本画十七点と彫刻七点を紹介します。存在感のある狩野芳崖や菱田春草、小品ながら味わいのある平櫛田中や高村光雲などの作品をご覧ください。

特別展 「石川の歴史と文化再発見」(前期)

石川県立歴史博物館共催事業

「武士の装い」
ものぶ

石川県立歴史博物館所蔵の名品を中心に

8月4日(土) ～ 9月17日(月・祝)

◆ 第一・第二展示室

石川県はかつて「加賀国」「能登国」と呼ばれ、それぞれ独自の歴史と文化を保持してきました。そして、江戸時代には加賀・能登・越中を領有する「加賀藩」が成立します。統治者である前田家は、文化に対して積極的な振興政策を展開し、美術工芸の分野に「加賀百万石」の富を惜しみなく投入しました。

藩の中心都市である金沢には、全国から著名な文化人が招かれ、藩内各地には多くの優れた美術工芸の文化が花開きました。

その結果、九谷焼や輪島塗など様々な伝統工芸が発達しました。その血脈は現在も脈々と受け継がれ、石川県は伝統工芸の盛んな地域として知られています。

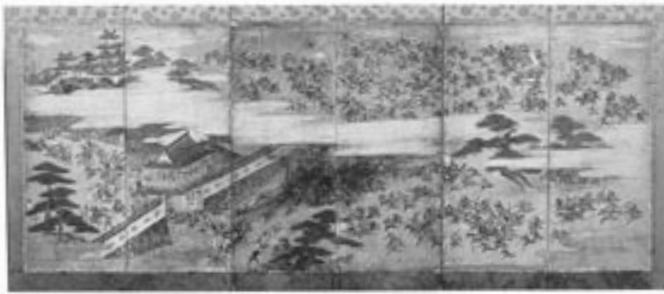
本展は、現在石川県内に伝えられている様々な作品や史料などを通して、石川県が誇る歴史や文化の一端を紹介し、郷土の優れた文化を改めて観てみようという特別展です。



県文「銭九曜紋陣羽織」
石川県立歴史博物館蔵

その内容は「歴史」と「文化」の二本立てとして、前期では歴史をテーマにした展示、後期では「文化」をテーマとした展示を行います。今回ご紹介するのは前期の「歴史」をテーマとした展示です。石川県立歴史博物館の特別協力を得て、同館が所蔵する甲冑や刀剣、馬具である鎧などより、かつて武士達を華々しく飾っていた軍装に関する様々な品々を、加賀藩ゆかりの作品や史料を中心に展示します。

また、武士達の凛々しい姿を現在に伝える肖像画や、合戦図なども併せて紹介します。



「大坂之陣図屏風」 石川県立歴史博物館蔵

甲冑：モノノフたちの晴れ着

かつて武士達が戦争時の防具として身にまとっていたのが甲冑で、「甲」は鎧、「冑」は兜をいいます。平安～鎌倉時代は「大鎧」、室町時代は「胴丸」という風に、時代によってその主流様式は変化し、戦国時代以後は「当世具足」が中心と



「波に兎図紋章散鎧」
当館蔵 (池田コレクション)

「矢漆塗矢籠」
石川県立歴史博物館蔵

なります。

当世具足とは、戦国時代の大軍による集団戦や、長槍や鉄砲などの使用による戦法の変化に対応して誕生した甲冑で、兜・鎧の他に面具や籠手、佩盾といった「小具足」を加えて一揃えとなります。実用的な造りである一方で、戦場で自己の存在を誇示するために派手な装飾が施されました。

江戸時代となって泰平の世となると、更に装飾に重点がおかれるようになり、加賀藩においては藩営の「細工所」で「加賀具足」と呼ばれる独自の甲冑が制作されました。

藩主の甲冑を手本として、家臣がそれぞれ身分に応じた甲冑を制作、家中の甲冑スタイルを統一する方法で、これは「御家流」と呼ばれます。特に加賀具足は高度な工芸技術に裏打ちされた、すばらしい装飾を施すことが特徴です。

本展では能登に深い繋がりを持ち、「加賀八家」の一家として知られる、長家伝来の甲冑などを紹介します。



「浅葱糸威五枚胴具足」
石川県立歴史博物館蔵



「紅糸威仁王胴具足」
石川県立歴史博物館蔵

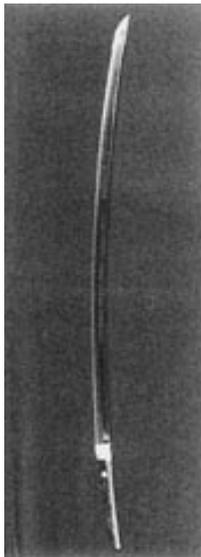
様々な軍装品：モノノフたちを彩った品々

甲冑の他にも武士達は様々な陣中道具を着用、或いは身近に置きました。

まず欠かせないのが刀剣です。戦国時代に入り、鉄砲など新しい武器が使用されるようになり、武士にとつての武器はやはり刀でした。江戸の泰平期に入ると、他の道具と同様に刀剣も波紋の美しさなど装飾性が追求されるようになり、加賀藩では藩主の庇護の下、「加賀新刀」と呼ばれる刀剣が制作されています。

そして、刀剣がその機能を発揮させるのに欠かせないのが刀装具であり、太刀から打刀へと転換した室町時代以降、それまで機能重視だった刀装具が装飾性重視となり、加賀藩でも様々な工芸技術を駆使した華やかで技巧的なものが多く制作されました。

また、加賀藩では鎧でも多くの名品を制作しました。それらは「加賀象嵌鎧」と呼ばれ、その優れた出来ばえにより名産品として将軍家や全国の名への献上品としても用いられています。その他、本展では陣羽織や采配、陣幕など武士を彩った様々な軍装品を紹介します。



「刀 清光」
石川県立歴史博物館蔵



県文「軍扇」
石川県立歴史博物館蔵



県文「金采配」
石川県立歴史博物館蔵



重文「前田利春画像」
長輪寺蔵

絵画：モノノフたちの晴れ姿

武士の肖像が描かれるのは武家の政権が成立した鎌倉時代頃からだとされ、室町時代以降にその数は増え、桃山時代からは飛躍的に増加、多くの武士達が描かれました。その表現は様々で、武士単独で表されることもあれば、奥方や家臣、時には馬などの動物と一緒に描かれることもありま。また、その装いも衣冠束帯姿で表されることもあれば、甲冑を身に纏った勇ましい姿のこともあり様々です。石川県においては、前田家とその家臣たちが描かれることが多く、特に藩祖・前田利家の肖像は信仰の対象として数多く制作されています。

やはり、武士の一番華々しい姿といえば戦場で活躍している場面であり、合戦における自らの功績を宣伝し後世に伝える、また、時代が泰平の世になってからは、歴史上の著名な合戦に思いをはせることなどを目的として、合戦図や布陣図などが盛んに描かれました。

本展では、七尾市の長輪寺が所蔵する前田家の武士達の肖像画や、前田家三代藩主利常が活躍した合戦を描いた「大坂之陣図屏風」などを紹介します。

また、江戸時代の参勤交代の行列を詳細に描き、加賀百万石の威容を現在に伝える存在として著名な、「加賀藩大名行列図屏風」も併せて展示します。

「武士の装い」関連行事案内

①「親子で楽しむ おもしろ武士の体験講座」

日時：8/12(日) 13:00～14:00

会場：当館アートホール

講師：長谷川孝徳氏(北陸大学教授)

内容：武具の複製を見て、触れて、武士の生活を楽しく学びます。

定員：小学生以上の親子30組

申込：7/20(金)から電話受付開始

※参加無料

②「展覧会ギャラリートーク」

日時：8/19(日) 13:00～14:00

会場：当館展示室

講師：長谷川孝徳氏(北陸大学教授)

※参加には観覧券が必要です。

③「れきはく歴史体験inななお」

～武士の時代にタイムトリップ～

日時：各日 14:00～16:00

8/11(土)～19(日)、25(土)、26(日)

9/8(土)、9(日)、15(土)～17(月・祝)

会場：当館第三展示室

内容：実際に甲冑(複製)を着用して、武士の疑似体験をします。

対象：小学生以上

※参加には観覧券が必要です。

※全身着用の場合は、多少時間が必要です。

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	500円	400円	
	350円	300円	

※中学生以下無料・団体は二十名以上です。

アートホール催し物案内

第5回石川県NOTOピアノコンクール 課題曲公開レッスン

7月21日(土)
開演 午後1時30分

8月11日(土) 12日(日) に行われるピアノコンクールの課題曲による公開レッスンです。講師は桐朋学園大学付属音楽教室講師の辻井雅子先生(同コンクール実行委員長)です。

入場料 1,500円

主催 石川県NOTOピアノコンクール実行委員会

連絡先 同コンクール事務局(ミヤコ音楽室内)

☎0767(53)0001

北嶺中学校フルバンド部 第26回定期演奏会

7月22日(日)

開演 午後1時30分

サクソフオン6名、パーカッション2名、キーボード1名の合計9名による演奏です。少人数のため、楽譜をアレンジし工夫しながら練習しました。独自の響きをぜひお聴きください。

入場料 無料

主催・連絡先 七尾市立北嶺中学校

☎0767(58)1213

第6回メロディーパレット

8月5日(日)
開演 午後1時30分

石田ゆかり音楽教室門下生(園児から大学生)による二年に一度の発表会です。ピアノソロ、アンサンブルなど、日頃の練習の成果を発表致します。どうぞお聴きください。

入場料 無料

主催 石田ゆかり音楽教室

連絡先 石田ゆかり

☎0767(53)4628

ピアノ演奏会&大正琴の集い

9月30日(日)

開演 午前12時30分

ピアノ演奏では子ども達が主役です。この日の為に頑張っておけいこしてきました。大正琴演奏は意外性とその魅力を大いに感じていただける曲を選曲しました。どうぞご来場ください。

入場料 無料

主催 琴修会石川織姫会、ポコアポコの仲間たち

連絡先 大河内博美

☎0767(74)1606

市民ギャラリー催し物案内

第12回七尾日創展

7月5日(土)～8日(日)
但し、初日は午後1時から
最終日は午後4時まで

石川県内外から出品された日本画を中心とした絵画作品約60点を展示します。抽象から具象まで、各出品者のさまざまな個性あふれる表現をお楽しみください。

入場料 無料

主催 日創会(代表 丹羽俊夫)

連絡先 三宅厚史

☎0767(77)1368

第13回七尾美術作家協会展

7月14日(土)～16日(月・祝)

但し、最終日は4時まで

この協会展は、日本画・洋画・彫塑・工芸・書・写真の全会員が新作を出品し、広く市民、県内の皆様方に見ていただき、研鑽と高揚を目指します。

入場料 無料

主催 七尾美術作家協会

連絡先 同会会長 清水聖鵬

☎0767(52)3931

石川県七尾美術館 友の会会員の皆様へ

☆なび☆
☆きてきて七美☆

キャンペーン実施中!

ポイントはいくつたまりましたか?

当館の展覧会を観覧、または当館喫茶室を利用時には、ポイントカードにスタンプを押してもらって下さい。ポイント数に応じてプレゼントを差し上げています♪

石川県七尾美術館 友の会 事業報告

『長谷川等伯展
～最晩年の名作～』
列品解説を開催



▲第1展示室「波龍図屏風」前で

晴天さわやかな4月29日、午前11時より当館学芸員による列品解説が行われました。作品が制作された時代背景や題材について、また、等伯が晩年に描いた作品の特徴、落款の違いなどを解説。ご参加くださった約20名の方々は皆熱心に聞き入っていました。



▲第2展示室「日通上人像」前で

参加者大募集!

第8回石川県七尾美術館友の会

「鑑賞の旅」のご案内

「狩野永徳」展鑑賞&

東寺(教王護国寺)骨董市めぐり

今年の「鑑賞の旅」は京都方面へ、今秋当館で開催「茶の湯の美術」展にちなんで東寺(教王護国寺)の骨董市(弘法市)へ行きます。市の出店数は二千〜三千、骨董品、衣類、雑貨など様々な品が販売されているそうです。鑑賞眼に磨きをかけて掘り出し物を探してみませんか?



さらにもうひとつ、京都国立博物館で開催の特別展「狩野永徳」も鑑賞します。長谷川等伯のライバルであり、日本美術史上に輝かしい足跡を残した「狩野永徳」。この展覧会は初の「永徳」展として開催されるもので、国内外の名品をはじめ、初公開・新発見の作品も出品されるといって今年注目度ナンバーワンの展覧会です。

見ごたえ、楽しみたっぷり「友の会鑑賞の旅」皆様からのお申込みをお待ちしております。

◆日 程 10月21日(日)

※七尾美術館駐車場 朝5時出発

《貸切バス利用・日帰り》

◆参加費 10,000円【観覧料・昼食代込】

(会費以外の方は11,000円)

◆募集定員 先着25名(対象は原則として成人)

◆申込開始日 7月10日(火)午前9時から

◆申込方法 参加費をご持参のうえ、当館受付までお越し下さい。

石川の歴史と文化再発見「茶の湯の美術」

「特別鑑賞会」のお知らせ

9月22日から開催の「茶の湯の美術」石川県立美術館所蔵の名品を中心に「会期中、嶋崎丞館長による友の会会員限定「特別鑑賞会」を開催します。(9月下旬)

展示室で作品を鑑賞しながら、作品の伝来をはじめ、作品に関するエピソード、鑑賞のポイントなど「とっておきのお話」を聞くことができます。「わかりやすくするために」と評判の嶋崎館長のお話と県立美術館名品の数々。

この機会をぜひお見逃しなく! 開催日時については、この美術館だよりに同封されている友の会会員様あて添書をご覧ください。

ご応募ありがとうございました!

前回「美術館だより(第49号・春号)」掲載分

-ちょっと-息- クイズに挑戦! 解答編

に	し		だ	い	こ	う
せ	ん	け	ん		め	し
さ		い		り	だ	つ
つ	り	か	わ		わ	
	ゆ		か	た	ら	い
こ	う	け	い	た	き	な
し		ん		び	で	お

長谷川等伯が40歳代頃まで使用した雅号です。

【クイズの答え】「信春」

A	し
B	ん
C	し
D	ゆ
E	ん

相互割引館の展覧会情報

開館時間、休館日等は各館へお問合せください。

石川県立美術館 ☎076(231)7580

特別陳列「白山を描く―石川・福井の画家たち―」

「夏休み 親子で楽しむ美術館」

会期 7/21(土)〜9/2(日)
観覧料 一般350円 2800円

霊峰白山を描いた作品により、人々の白山への思いを紹介。「親子で楽しむ美術館」ではワークショップを通して楽しく作品鑑賞ができます。

企画展「日本の美―人・鳥・花・そして風景―」

会期 9/4(火)〜20(木)
観覧料 一般250円 2000円

会場 石川県立歴史博物館
人・鳥・花・風景にちなんだ絵画・工芸などを展示します。

【右記観覧料で歴史博物館の常設展も観覧できます】
9/3(月)より約1年間、館内改修のため休館します。
休館中、石川県立歴史博物館を会場に展覧会を開催します。

石川県立歴史博物館 ☎076(262)3236

夏季特別展「白山―聖地へのまなざし―」

会期 7/21(土)〜8/26(日)
観覧料 一般700円 5600円

石川・福井・岐阜県にまたがる霊峰白山。人々は住古より秀麗な姿や、恩恵などから様々な思いを託してきました。そのまなざしの心を、仏像や絵画・史料などの遺品をとおし紹介します。

【右記観覧料で常設展も観覧できます】

能登島ガラス美術館 ☎0767(84)1175

企画展「香りとガラス―2つの出会いと軌跡―」

会期 開催中〜9/17(月)
観覧料 一般800円 7000円

古代から現代までの華麗な香りのガラス器80点をご紹介します。香り体験コーナーもあります。香りとガラスの芳潤な世界をご堪能ください。

関連イベント

アロマキャンドル作り

7/14(土)、15(日)

香りのうつわ作り

8/11(土)〜13(月)

お香作り(予定)

9/8(土)、9(日)



香水瓶
「二人の人物、小像のある栓」
ルネ・ラリック 1912年
高砂香料コレクション



これからの展覧会予定



◆第1・2展示室 特別展「石川の歴史と文化再発見」(後期)

石川県立美術館共催事業

「茶の湯の美術 ～石川県立美術館所蔵の名品を中心に～」 平成19年9月22日(土)～10月28日(日)

石川県内に所蔵される様々な優れた作品を2テーマで紹介する特別展「石川の歴史と文化再発見」の後期展示です。

本展では、石川県立美術館が所蔵する加賀前田家伝来の名品など、様々な茶道具を中心に、当館所蔵品「池田コレクション」より美濃焼などを加えて、茶道美術品の数々を紹介予定です。



重美・県文「祇園会図」
伝長谷川久蔵 石川県立美術館蔵

◆第1・2・3展示室



「2007イタリア・ポローニャ国際絵本原画展」 平成19年11月9日(金)～12月9日(日) 会期中無休

毎年ポローニャ市で開催される、絵本原画コンクールの入選作品が今年もやってきます。絵本のために制作された5枚組の原画は世界中から応募があり、今年は23カ国85名の個性豊かな作品が選ばれました。また、特別展示は2006年度国際アンデルセン賞画家賞を受賞したヴォルフ・エアルブルッフ(ドイツ)です。会期中には絵本づくりワークショップや絵本アニメ上映会なども行います。

「Poems of Kanyadi Sandor for Children」HAKHULT GABRIELLA (Hungary)

平成19年12月15日(土)～平成20年1月27日(日)

◆第1展示室

「所蔵品展

～桃山・江戸時代の長谷川派を中心に～

本展では最晩年の作品を公開した春の特別展「長谷川等伯展」の流れを受けて、桃山から江戸時代の長谷川派作品に、当館所蔵の等伯作品2点(前期・後期で展示替え有り)もあわせて約10点を展示します。

◆第2展示室

「所蔵品展 ～女流画家たちの視点～」

石川県ゆかりの女流画家たちがそれぞれの視点で捉え描いた絵画を、所蔵作品と寄託作品から紹介します。時にはやさしく繊細で、時には内に秘めた強さが伝わってくる、そんな魅力的な作品16点をお楽しみください。



「屋根」古澤洋子



割引、プレゼントなど特典いろいろ！
ぜひ当館でもご利用下さい。



飛行機……能登空港から能登有料道路利用約45分
車……金沢から能登有料道路利用約1時間15分
タクシー……JR七尾駅から約5分
徒歩……JR七尾駅より約20分
市内循環バス……JR七尾駅前5番乗り場から西回りに乗車約6分(まりん号)

休館日のお知らせ

(7月～9月)

- ◆7月 2, 9, 17, 23, 30, 31
- ◆8月 1～3, 6, 20, 27
- ◆9月 3, 10, 18～21, 25

◎次号・第51号(秋号)は10月1日発行予定です。